

# 「地域密着・花のある街 人にやさしい街づくり」を目指して

## ACTIVE KUMIAI



2周年記念イベントで賑わう「こころん」

朝日通り商店街協同組合(樋口幹男理事長)は、9月27日「福祉合同ショoppこころん」の2周年記念イベントを開催した。

「こころん」は、一昨年に甲府市の支援を受け商店街の活性化と雇用対策の一環として空き店舗を活用し、県内初となる障害者授産施設の製品

販売店として開店した。当日は、地域の福祉施設で製作したパンや果物、陶器などの実演販売を行った。

これをきっかけに、産・学・官・民・金融・メディア・組合がスクラムを組み「朝日通り7者コンソーシアム(AS H7)」を立ち上げ、商店街のシンボルツリーであるハナミズキにスポットをあてた「ハナミズキ構想」を作成した。その手始めとして、ハナミズキから抽出した酵母菌を使用したパンの開発やマスコットキャラクター「ズッキーちゃん」を考案した。

組合は、今年11月に設立40年を迎える。樋口理事長は、「大型店は、肉食獣。獲物がなくなったら移動する。しかし、商店街は植物である。小さな種が成長し花を咲かせ実を結び、次の世代に引き継いでいく。地域の人たちと顔見知りになり、お互いに関心を持つことで犯罪や事件、事故から地元を守る。また、地域の福祉施設で作ったものを地域の商店街を通じて地域のお客様にお買い上げ頂き、

『心の温かさ』が

触れあい、車に頼らないコンパクトシティを目指す。指したい。」と商店街の未来予想図を熱く語った。



マスコットキャラクターの「ズッキーちゃん」